

## 「川崎市行財政改革第2期プログラム」の取組評価について（案）

## 1 計画期間4年間の取組評価のスケジュールについて

## (1) 内部評価の実施

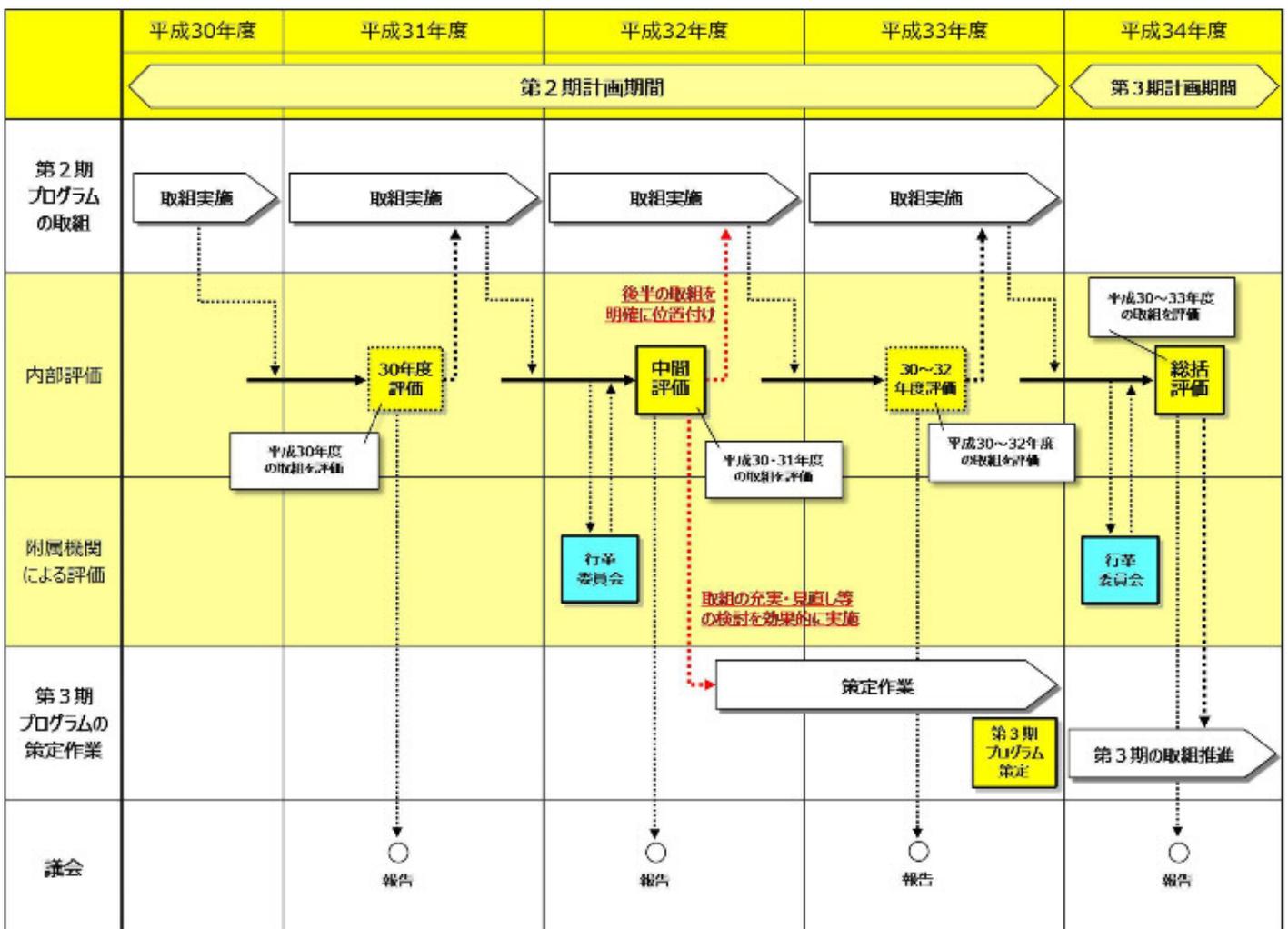
第2期プログラムに掲げる157の改革の取組を対象として、毎年度、内部評価を実施し、議会へ報告するとともに、市民へ公表する。

なお、各年度の取組評価においては、平成31年度上半期に平成30年度の取組を、平成32年度上半期に平成30・31年度の取組（中間評価）を、平成33年度上半期に平成30～32年度の取組を、平成34年度上半期に平成30～33年度の取組（総括評価）を評価対象として評価を実施する。

## (2) 附属機関（川崎市行財政改革推進委員会）による評価の実施

第2期計画期間中の取組の実施に向けて計画期間後半の取組の方向性をより明確に位置付けるため、また、第3期プログラムの策定に向けて取組の充実・見直し等の検討を効果的に実施するため、特に重要となる中間評価（平成32年度上半期実施）及び第2期プログラムに基づく取組の総まとめとなる総括評価（平成34年度上半期実施）において行財政改革推進委員会での審議を実施する。

## 【第2期プログラム取組評価スケジュール】



## 2 評価シートの記入方法の見直しについて

『「川崎市行財政改革プログラム 平成 28・29 年度の取組結果（内部評価）」に関する審議結果』中、「2（3）評価シートの分かりやすさの向上」においていただいた御意見を踏まえ、平成 30 年度の取組評価から次のとおり、評価シートの記入方法を見直す。

### 2 評価全般に関する審議結果について

#### （3）評価シートの分かりやすさの向上

「評価（Check）」中の「取組の総体的効果」欄について、各所管課が取組の効果測定に積極的に取り組んだ結果として、より詳細な記載内容になっているものもある。

そのため、現在は、プログラム等で設定している指標を「成果指標」欄に記載することとしているが、今後は、プログラム等で設定していない指標でも、計画期間中の評価を通じて定量的に効果を測定できると判断したものについては、目標値の設定ができないものであっても、「成果指標」欄に実績を記載することとするなど、評価内容がより分かりやすいものとなるよう、「川崎市行財政改革第 2 期プログラム」の平成 30 年度の取組評価に向けて、評価シートの記入方法の変更を検討していただきたい。

（『「川崎市行財政改革プログラム 平成 28・29 年度の取組結果（内部評価）」に関する審議結果』より抜粋）

#### （1）「成果指標」欄の記入方法の変更

##### ア 行財政改革プログラム（第 1 期）の取組評価における記入方法【変更前】

行財政改革プログラムに掲載の成果指標、又は、総合計画の関連する事務事業もしくは施策評価における成果指標を記入する。

##### イ 行財政改革第 2 期プログラムの取組評価における記入方法【変更後】

引き続き、行財政改革第 2 期プログラムに掲載の成果指標、又は、第 2 期実施計画の関連する事務事業もしくは施策評価における成果指標を記入するとともに、いずれの計画にも設定していない指標であっても、評価を通じて定量的に効果を測定できると判断したもので、かつ、計画期間を通じて継続的に数値の把握が可能なものについては、「成果指標」欄に記入することができる運用とする。なお、指標の目標値については、各計画の策定段階において、市議会での議論やパブリックコメント手続等を通じていただいた市民意見などを踏まえ設定したものであることから、いずれの計画にも設定していない指標については、目標値は設定せず、実績値により評価するものとする。

⇒記入イメージは、3 ページのとおり。

#### （2）「活動指標」欄の記入方法の変更

（1）の「成果指標」欄と同様に、「活動指標」欄の記入方法についても変更する。

##### ア 行財政改革プログラム（第 1 期）の取組評価における記入方法【変更前】

行財政改革プログラムに掲載の活動指標を記入する。

##### イ 行財政改革第 2 期プログラムの取組評価における記入方法【変更後】

引き続き、行財政改革第 2 期プログラムに掲載の活動指標を記入するとともに、第 2 期プログラムに設定していない指標であっても、評価を通じて定量的に活動実績を示すことができると判断したもので、かつ、計画期間を通じて継続的に数値の把握が可能なものについては、「活動指標」欄に記入することができる運用とする。なお、第 2 期プログラムに設定していない指標については、上記（1）イの成果指標における取扱と同様に、目標値は設定せず、実績値により評価するものとする。

⇒記入イメージは、4 ページのとおり。

<記入イメージ① 「成果指標」欄の記入方法>

(例) 戦略的な資金調達と資金運用の推進

平成28・29年度 各局等改革プログラム評価シート

評価 (Check)																																																	
総合計画又は行財政改革プログラムにおける成果(アウトカム)指標		区分	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位																																										
成果指標	1		目標	/																																													
		説明	実績																																														
	2		目標	/																																													
		説明	実績																																														
	3		目標	/																																													
		説明	実績																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="10">区分</th> </tr> <tr> <th>ヒト</th> <th>-</th> <th>モノ</th> <th>-</th> <th>カネ</th> <th>○</th> <th>情報</th> <th>-</th> <th>その他</th> <th>-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="10">区分選択の理由</td> </tr> <tr> <td colspan="10">                     【カネの効果】                      (H28)                      ・平成28年度においては、市場環境や既借入の状況など、いくつかの好条件に恵まれたこともあり、補償金を必要としない市債の借換を行い、17年間で約1,500万円(年間約90万円)の利子負担軽減の財政効果を創出することができました。                      ・効果的な資金運用となるよう対象銘柄の選定を行い、約18億3千万円の運用益を確保することができました。                      (H29)                      ・効果的な資金運用となるよう対象銘柄の選定を行い、約18億6千万円(見込み)の運用益を確保することができました。                 </td> </tr> </tbody> </table>										区分										ヒト	-	モノ	-	カネ	○	情報	-	その他	-	区分選択の理由										【カネの効果】 (H28) ・平成28年度においては、市場環境や既借入の状況など、いくつかの好条件に恵まれたこともあり、補償金を必要としない市債の借換を行い、17年間で約1,500万円(年間約90万円)の利子負担軽減の財政効果を創出することができました。 ・効果的な資金運用となるよう対象銘柄の選定を行い、約18億3千万円の運用益を確保することができました。 (H29) ・効果的な資金運用となるよう対象銘柄の選定を行い、約18億6千万円(見込み)の運用益を確保することができました。									
区分																																																	
ヒト	-	モノ	-	カネ	○	情報	-	その他	-																																								
区分選択の理由																																																	
【カネの効果】 (H28) ・平成28年度においては、市場環境や既借入の状況など、いくつかの好条件に恵まれたこともあり、補償金を必要としない市債の借換を行い、17年間で約1,500万円(年間約90万円)の利子負担軽減の財政効果を創出することができました。 ・効果的な資金運用となるよう対象銘柄の選定を行い、約18億3千万円の運用益を確保することができました。 (H29) ・効果的な資金運用となるよう対象銘柄の選定を行い、約18億6千万円(見込み)の運用益を確保することができました。																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">区分</th> <th colspan="5">区分選択の理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">A. 大きく貢献した B. 貢献した C. 貢献できたが課題もあった D. 課題があった X. 測定できない Y. その他(未だ効果は発現していない)</td> <td colspan="5">B 補償金を必要としない市債の借換を行い、利子負担軽減の財政効果を創出することができたため。 また、市場の状況を踏まえ、適切な資金運用を実施できたため。</td> </tr> </tbody> </table>										区分					区分選択の理由					A. 大きく貢献した B. 貢献した C. 貢献できたが課題もあった D. 課題があった X. 測定できない Y. その他(未だ効果は発現していない)					B 補償金を必要としない市債の借換を行い、利子負担軽減の財政効果を創出することができたため。 また、市場の状況を踏まえ、適切な資金運用を実施できたため。																								
区分					区分選択の理由																																												
A. 大きく貢献した B. 貢献した C. 貢献できたが課題もあった D. 課題があった X. 測定できない Y. その他(未だ効果は発現していない)					B 補償金を必要としない市債の借換を行い、利子負担軽減の財政効果を創出することができたため。 また、市場の状況を踏まえ、適切な資金運用を実施できたため。																																												

平成30年度 各局区等改革の取組評価シート

※記入内容はイメージです。

評価 (Check)																																																	
第2期実施計画又は行財政改革第2期プログラムにおける成果(アウトカム)指標		区分	目標・実績	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位																																								
成果指標			目標	/																																													
		説明	実績																																														
			目標	/																																													
		説明	実績																																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">その他の成果(アウトカム)指標</th> <th>区分</th> <th>実績</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>H31年度</th> <th>H32年度</th> <th>H33年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">1</td> <td>カネ</td> <td>実績</td> <td>約18.6</td> <td>約×× (見込み)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>億円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">説明</td> <td colspan="8">                     資金の運用により得られる収益額                      ※第2期実施計画又は行財政改革第2期プログラムにおける成果指標ではないため、目標は設定していません。                 </td> </tr> </tbody> </table>										その他の成果(アウトカム)指標		区分	実績	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位	1		カネ	実績	約18.6	約×× (見込み)				億円	説明		資金の運用により得られる収益額 ※第2期実施計画又は行財政改革第2期プログラムにおける成果指標ではないため、目標は設定していません。																
	その他の成果(アウトカム)指標		区分	実績	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位																																							
1		カネ	実績	約18.6	約×× (見込み)				億円																																								
説明		資金の運用により得られる収益額 ※第2期実施計画又は行財政改革第2期プログラムにおける成果指標ではないため、目標は設定していません。																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="10">区分</th> </tr> <tr> <th>ヒト</th> <th>-</th> <th>モノ</th> <th>-</th> <th>カネ</th> <th>○</th> <th>情報</th> <th>-</th> <th>その他</th> <th>-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="10">区分選択の理由</td> </tr> <tr> <td colspan="10">                     【カネの効果】                      ・効果的な資金運用となるよう対象銘柄の選定を行い、約××億円(見込み)の運用収益を確保することができました。                 </td> </tr> </tbody> </table>										区分										ヒト	-	モノ	-	カネ	○	情報	-	その他	-	区分選択の理由										【カネの効果】 ・効果的な資金運用となるよう対象銘柄の選定を行い、約××億円(見込み)の運用収益を確保することができました。									
区分																																																	
ヒト	-	モノ	-	カネ	○	情報	-	その他	-																																								
区分選択の理由																																																	
【カネの効果】 ・効果的な資金運用となるよう対象銘柄の選定を行い、約××億円(見込み)の運用収益を確保することができました。																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">区分</th> <th colspan="5">区分選択の理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">A. 大きく貢献した B. 貢献した C. 貢献できたが課題もあった D. 課題があった X. 測定できない Y. その他(未だ効果は発現していない)</td> <td colspan="5">B 適正な資金運用を実施できたとともに、その結果として、約××億円(見込み)の運用収益の確保につながったため。</td> </tr> </tbody> </table>										区分					区分選択の理由					A. 大きく貢献した B. 貢献した C. 貢献できたが課題もあった D. 課題があった X. 測定できない Y. その他(未だ効果は発現していない)					B 適正な資金運用を実施できたとともに、その結果として、約××億円(見込み)の運用収益の確保につながったため。																								
区分					区分選択の理由																																												
A. 大きく貢献した B. 貢献した C. 貢献できたが課題もあった D. 課題があった X. 測定できない Y. その他(未だ効果は発現していない)					B 適正な資金運用を実施できたとともに、その結果として、約××億円(見込み)の運用収益の確保につながったため。																																												

①定量的に効果を測定できると判断したもので、かつ、計画期間を通じて継続的に数値の把握が可能なものを「成果指標」の「その他の成果(アウトカム)指標」欄に記入する。

②目標値は設定せず、実績値を記入する。

<記入イメージ② 「活動指標」欄の記入方法>

(例) 一層の市税収入確保に向けた取組強化

平成28・29年度 各局等改革プログラム評価シート

実施結果 (Do)						
行財政改革プログラムにおける活動(アウトプット)指標		目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
活動指標	1	目標	/			
		説明				
	2	目標	/			
		説明				
その他の活動実績		【H28・H29】 ・初動強化体制のもと、初期未納対策として早期に催告を始動し、迅速に滞納処分に着手した結果、電話催告数は、平成28年度において、平成29年5月末までの目標115,460件に対して、161,958件と目標を上回って達成しました。また、平成29年度においては、平成30年5月末までの目標164,820件に対して、186,776件と目標を上回って達成しました。 ・債権・動産差押えや、インターネットを利用した公売を積極的に推進し市税収入率向上を図りました。				
当初目標に対する達成度		1	1. 目標を上回った 2. ほぼ目標どおり 3. 目標を下回った 4. 状況の変化により目標を達成できなかった			

平成30年度 各局区等改革の取組評価シート

※記入内容はイメージです。

実施結果 (Do)									
行財政改革第2期プログラムにおける活動(アウトプット)指標		目標・実績	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位	
活動指標	1	目標	/						
		説明							実績
	その他の活動(アウトプット)指標		実績	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	2	電話催告件数	実績	161,958	◆◆				件
説明		取組年度の翌年度5月末までに実施した電話催告の件数は、平成31年5月末までの目標▲▲件に対して、◆◆件と目標を上回って達成しました。 ※行財政改革第2期プログラムにおける活動指標ではないため、目標は設定していません。							
その他の活動実績		・初動強化体制のもと、初期未納対策として早期に催告を始動し、迅速に滞納処分に着手した結果、電話催告件数は、平成31年5月末までの目標▲▲件に対して、◆◆件と目標を上回って達成しました。 ・市税収入率向上に向けて、債権・動産差押えや、インターネットを利用した公売を積極的に推進しました。							
具体的な取組内容(活動目標)に対する達成度		1	1. 目標を上回った 2. ほぼ目標どおり 3. 目標を下回った 4. 状況の変化により目標を達成できなかった						

①定量的に活動実績を示すことができると判断したもので、かつ、計画期間を通じて継続的に数値の把握が可能なものを「活動指標」の「その他の活動(アウトプット)指標」欄に記入する。

②目標値は設定せず、実績値を記入する。

(3) 平成30年度 各局区等改革の取組評価シート

(1) 及び (2) の変更点を踏まえ、平成30年度の評価シートは別紙のとおりとする。

なお、「実施結果 (Do)」中の「具体的な取組内容(活動目標)に対する達成度」の区分及び「評価 (Check)」中の「事務事業等への貢献度」の区分については、「平成28・29年度 各局等改革プログラム評価シート」と同様の区分とする。また、「改善 (Action)」中の「今後の取組の方向性」の区分については、「平成28年度 各局等改革プログラム評価シート」と同様の区分とする。

# 平成30年度 各局区等改革の取組評価シート

改革課題		
改革項目	No.・課題名	所管
取組1-(1)参加と協働・連携による多様な主体が共に担うまちづくりの推進	1 今後のコミュニティ施策の基本的考え方の検討	市民文化局
関連する 事務事業	事務事業コード	事務事業名
	50101010	多様な主体による協働・連携推進事業
	50101030	地域振興事業
	50101040	市民活動支援事業
	50103010	区役所改革推進事業

計画 (Plan)	
現状	<p>・本市では、市民活動やコミュニティに関するさまざまな仕組みや制度を設け、多様な主体による活動を支援しています。</p> <p>・都市化、テクノロジーの進化、情報化、グローバル化などを背景として、市民一人ひとりの価値観、家族観、ライフスタイル等が多様化するなど、コミュニティを取り巻く環境が変化中、互助の土壌づくり、気軽な参加のきっかけづくりが求められており、さまざまな地域活動に関する相談対応や、地縁団体と市民活動団体の連携支援の充実など、区における中間支援機能の強化が必要となっています。</p> <p>・地域課題の解決の新たなしくみの構築に向けて、区民会議委員を対象としたアンケートや意見交換会、まちづくり推進組織の関係者を対象としたワークショップなどを通じて、これまでの取組に対する検証を進めています。</p>
取組の方向性	<p>平成29(2017)年3月の「川崎市共に支え合う地域づくり検討委員会」の報告書により検討を提言された「参加と協働による地域課題の解決の新たなしくみ」の構築等に向けて、平成30(2018)年度に「(仮称)今後のコミュニティ施策の基本的考え方」を策定し、これに基づく施策を推進します。</p>
具体的な取組内容 (活動目標)	

実施結果 (Do)										
活動指標	行財政改革第2期プログラムにおける活動(アウトプット)指標	目標・実績	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位		
			目標							
		説明	実績							
その他の活動実績	その他の活動(アウトプット)指標	実績	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位		
		説明								
具体的な取組内容 (活動目標)に対する達成度		<p>1. 目標を上回った</p> <p>2. ほぼ目標どおり</p> <p>3. 目標を下回った</p>		<p>4. 状況の変化により目標を達成できなかった</p>						

①「その他」の指標も記入することができる運用とすることから、「その他の活動(アウトプット)指標」欄を設定

②「平成28・29年度 各局等改革プログラム評価シート」と同様の区分を設定

評価 (Check)											
成果指標	第2期実施計画又は行財政改革第2期プログラムにおける成果(アウトカム)指標	区分	目標・実績	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位		
	1	地域貢献活動に関する取組にかかわったことのある人の割合(市民アンケート)	ヒト	目標					23以上	%	
		説明		実績	14.7						
			目標						③「その他」の指標も記入することができる運用とすることから、「その他の成果(アウトカム)指標」欄を設定		
			実績								
その他の成果(アウトカム)指標	区分	実績	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位			
		説明									

取組の 総体的 効果	区分						区分 選択の理由
	ヒト	モノ	カネ	情報	その他		

事務事業 等への 貢献度	区分						区分 選択の理由
	A	B	C	D	X	Y	

④「平成28・29年度 各局等改革プログラム評価シート」と同様の区分を設定

実施結果(Do) や評価(Check) を踏まえた 今後の取組の 方向性	方向性区分		方向性の 具体的内容
	I	II	

⑤「平成28・29年度 各局等改革プログラム評価シート」から変更し、「平成28年度 各局等改革プログラム評価シート」と同様の区分を設定  
(※平成30年度の評価は計画期間途中の評価となるため。)